

寄り添うケアについて考えてみたい ～あなたのそばであなたをささえるということ～

1. 施設紹介



- 入所定員：140名（うちユニット40名）
- ショートステイ：23名（うちユニット3名）

社会福祉法人 瑞祥 特別養護老人ホーム ピラ・オレンジ
サークル名 みはまフレンド

発表者氏名 平松美鈴 機械操作者氏名 竹内盛朝

特別養護老人ホームピラ・オレンジは、知多半島の南部、美浜町にあります。

四季を通じて豊かく、みかんの名産地として知られているこの自然いっぱいの地で、病院やその他多くの施設群を構え、広く地域の皆様に安心してご利用していただける施設を目指して日々努力を重ねています。

ピラ・オレンジは平成元年に開設、平成16年にはユニット型特養を増設。利用者様のより良い生活のため日々努力を続けています。

2. 実践発表サークル紹介

構成人員	7人	構成メンバーの職種	介護職員
平均年齢	23.4歳		生活相談員
現メンバーでの活動歴	6ヶ月	月当たりの会合回数	3回
過去のQC活動件数	0件	主な活動時間	業務時間内・外

3. テーマ選定理由

ユニット型特養も、開設から1年半という期間を経て、「利用者様一人ひとりに対する個別ケア」という意味においてのユニットケアにとどまらず、「ご家族を視野に入れたケア」・「利用者様が地域社会の一員として生活できるためのケア」が求められていると考えました。そこで、私たちの施設において、より深みをもったユニットケアが展開されるよう、全職員の意識を高めるためにも、このテーマに取り組むことにしました。

本テーマの活動期間（5ヶ月）

本テーマの会合回数（15回） 会合時間（1回平均120分）

4. 今回の活動に関する施設長のコメント

「寄り添う」ということが、ケアを行っていく上で、当たり前のように当たり前ではなく、簡単なようで簡単ではなくなっている場面は多々あるように思います。このテーマについて、QCサークル活動として取り組むことは、私たち職員にとっても、利用者様方にとっても、非常に大きな意味があると思います。メンバー全員が、この活動を通して成長できるよう、そして利用者様方へさらに質の高いケアが提供できるよう、がんばって取り組んでください。

5. テーマの選定

(H17.7.7 作成者 竹内 盛朝)

テーマ候補	評価項目	重要性	実現性	緊急性	期間	効果	数値化	上司方針	総合評価	優先順位
ユニット間の申し送りを徹底しよう		○	○	○	○	△	△	○	21	3
ユニットケアを深めよう		○	○	○	○	○	○	○	31	1
リハビリを充実させよう		○	○	○	△	○	○	○	27	2
交流室をもっと活用しよう		△	○	△	○	△	○	○	19	4

6. 活動計画

-----> 計画 —————> 実行

(17.7.15 作成者 渡邊 雄太)

	担当	7月			8月			9月			10月			11月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
テーマの選定	竹内	→														
活動計画作成	渡邊	→	→													
現状把握	平松		→	→												
目標設定	小林			→												
要因解析	平松				→											
対策立案・実施	相羽・澤田					→		→								
効果の確認	大井						→									
歯止め	相羽・澤田								→							
反省とまとめ	渡邊									→						

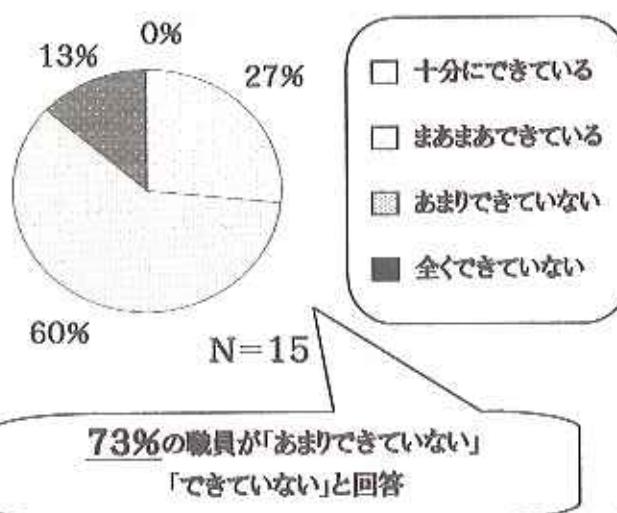
7. 現状把握

7-(1) 職員アンケート

◎利用者様の立場に立った個別ケアが

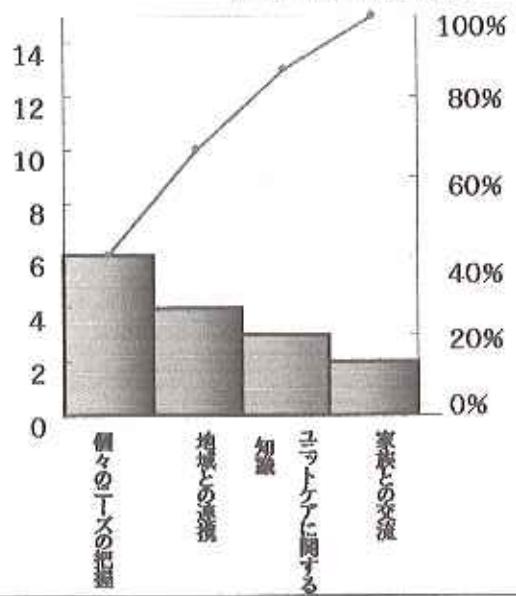
実践できていますか？

(H17.7.20 平松 美鈴)



◎個別ケアを実践する上で課題はありますか？

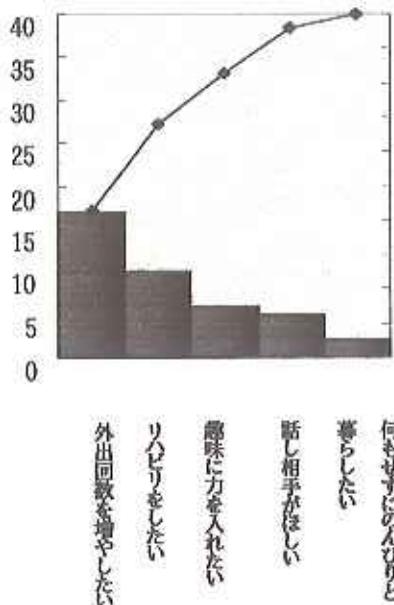
(H17.7.20 平松 美鈴)



7-(2) 利用者様アンケート

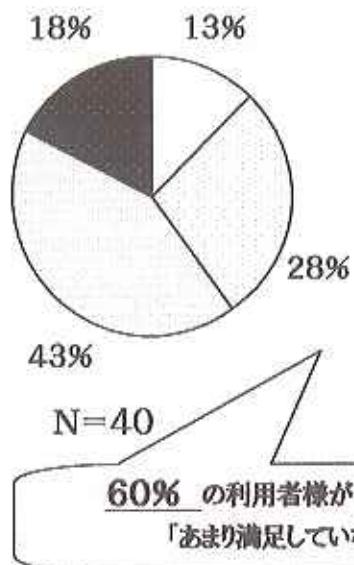
◎充実した生活を送るために何をしたいと思
いますか？

《H17.7.27 平松 美鈴》



◎現在の外出に満足していますか？

《H17.8.3 平松 美鈴》



外出回数を増やしたい 42%

リハビリをしたい 25%

趣味に力を入れたい 15%

話し相手がほしい 13%

何もせずのんびりと暮らしたい 5%

7-(3) 面会者数

7月の月間面会者数

186名

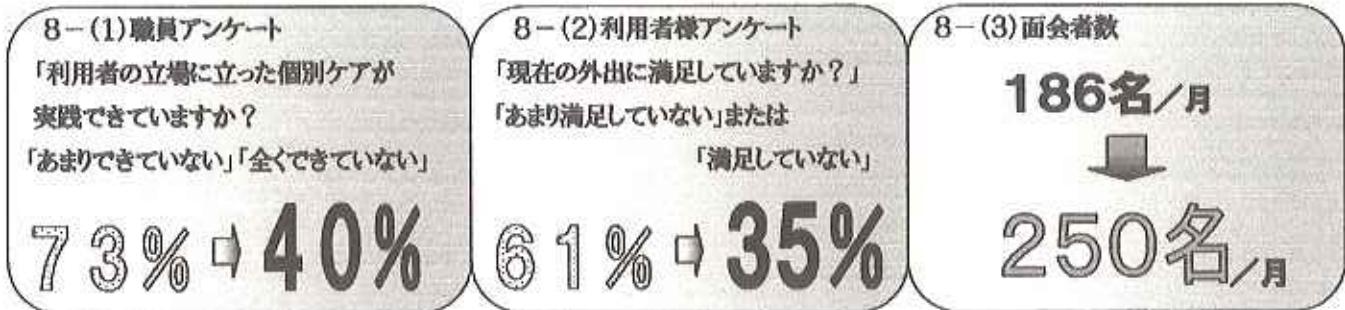
「家族の会」でのご家族の意見

- ・私たちは、本人が家にいた頃とは逆に、現在の本人の日頃の様子を細かい所までは把握できにくい
- ・私自身も、病気で体調が優れずなかなか伺えない（その他、遠方のため、仕事で忙しいなどの理由により面会回数が限られてしまう）。

★現状把握のまとめ

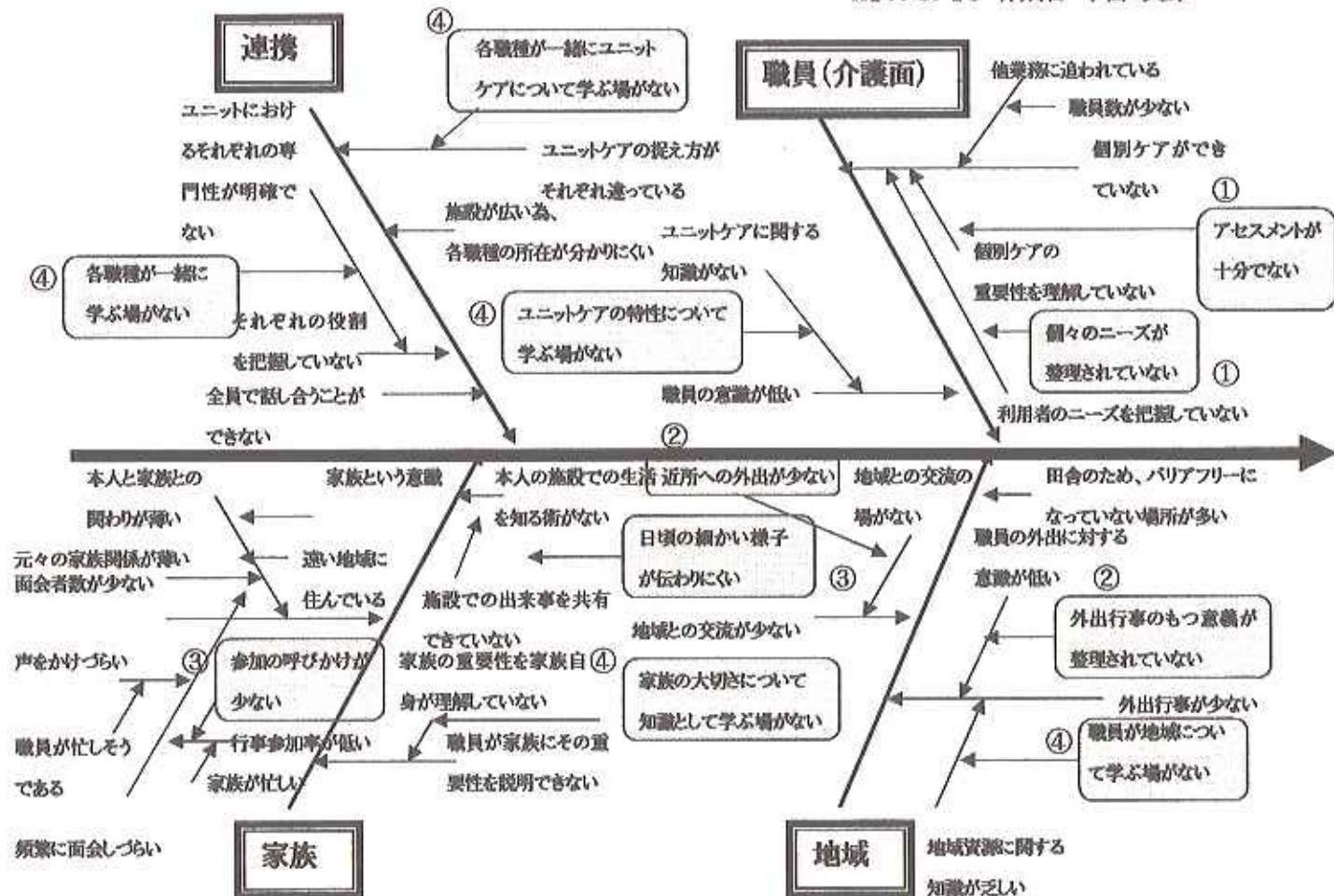
- ◆約7割の職員が、利用者様の立場に立った個別ケアが十分にできていないと感じている。
- ◆個別ケアを実践する上での課題については、「個々のニーズの把握」「地域との連携」「ユニットケアに関する知識」「家族との交流」の4項目が挙げられた。
- ◆約4割の利用者様が、生活を充実するために「もっと外出したい」と考えている。
- ◆約6割の利用者様が、現在の外出内容に満足していない。
- ◆7月の面会者数は186名であった。
- ◆「家族の会」でのご家族の意見から、「本人の日頃の様子をもっと知りたい」と感じていること、「家族自身の都合により面会回数が限られている場合もある」ことが分かった。

8. 目標設定



9. 要因解析

H17.8.10 作成者 平松 美鈴



10. 対策立案・実施

H17.8.15 作成者 澤田 敏行

番号	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
①	8/17	ケアセンター	袴田・澤田	アセスメント票を	作成する
	8/18~8/25	ユニット	袴田・メンバー全員	オリジナルアセスメントにてアセスメントを	実施する
②	8/25	会議室	竹内	ちょっとそこまで買い物を	企画する
	9/10	近所の商店	平松	ちょっとそこまで買い物を	実施する
③	8/20~8/31	ケアセンター	QCメンバー全員	家族会だよりを	作成する
	9/10	事務所	渡邊	家族会だよりを	配布する
④	8/26	ケアセンター	小林・大井	ユニットケア勉強会プログラムを	作成する
	9/1~9/30	会議室	小林・大井	ユニットケア勉強会を	開催する

対策の実施① オリジナルアセスメント票の作成と実施

<センター方式> <オリジナルアセスメント票>



対策の実施② ちょっとそこまで買い物の企画と実施

<美浜町商店マップの作成>



<ちょっとそこまで買い物の風景>



対策の実施③ 家族の会だよりの作成と配布



対策の実施④ ユニットケア勉強会の企画と実施



11. 効果の確認

11-(1) 職員アンケート

◎「利用者様の立場に立った個別ケアがでていますか？」
(H17.10.15 大井 由香)

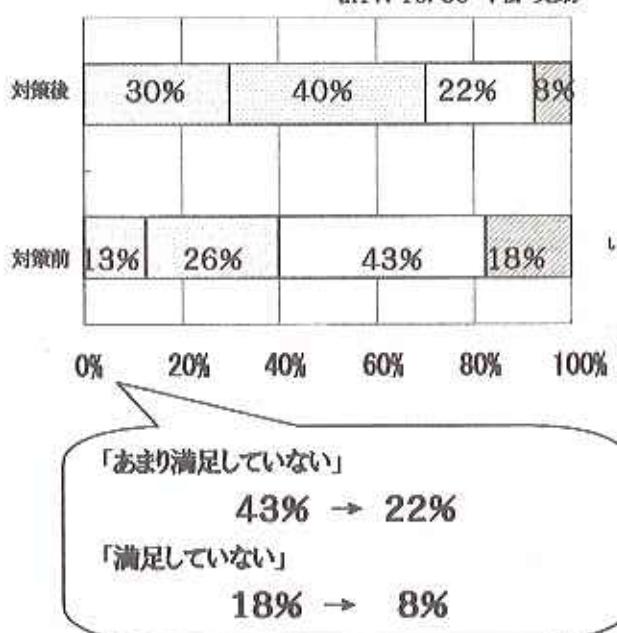
対策後	13%	54%	33%
対策前	27%	60%	13%



11-(2) 利用者様アンケート

◎「現在の外出に満足していますか？」

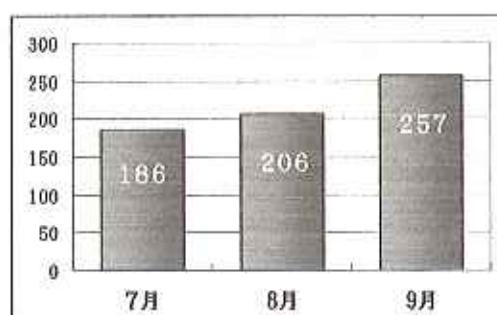
(H17. 10. 30 平松 美鈴)



11-(3) 面会者数

◎月別面会者数

(H17. 10. 1 大井 由香)



月別面会者数は

71人 増と

大幅に増えた

★目標達成率

11-(1)職員アンケート

「利用者様立の場に立った個別ケアが実践できていますか？」

「あまりできていない」「全くできていない」

対策前 目標値 対策後

73% 40% 33%

11-(2)利用者様アンケート

「現在の外出に満足していますか？」

「あまり満足していない」または

「満足していない」

対策前 目標値 対策後

61% 35% 33%

11-(3)面会者数

目標値 **206名／月**

対策前 **186名／月**

対策後 **257名／月**

12. 歯止め

H17. 11. 14 作成者 相羽 貴絵

番号	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
①	アセスメント時	ユニット	持田・担当職員	オリジナルアセスメントを	使用する
	毎月	ショッピングセンター	行事担当者	買い物ツアーを	実施する
②	業務の合間に	近所の商店	ユニット職員	ちょっとそこまで買い物を	実施する
③	年4回	ケアセンター	ユニット職員	ユニットケア家族の会だよりを	作成する
	年4回	事務所	生活相談員	ユニットケア家族の会だよりを	配布する
④	毎月	会議室	QCメンバー	ユニットケア勉強会を	開催する

13. 反省とまとめ

テーマの選定	■ユニットケアに携わる全職員が参加しやすいテーマを選ぶことができた。 ■ユニットケアに携わる多くの職員が感じている課題を選ぶことができた。	■様々な候補が上がり、優先度の数値化が難しかった。 ■良いテーマが選定できたが、非常に大きなテーマとなった。
活動計画	■細かく計画を立てることにより、常に進行状況を意識して動くことができた。	■計画に追われる場面が多々あった。
現状把握	■多視点からのデータ採取により、課題をはっきり浮かび上げることができた。	■データを取る項目の選択が難しかった。
目標設定	■目標をはっきりと数値化することで、活動に張りがもてた。	■数値化することのできる目標の選定が難しかった。
要因解析	■問題について要因ごとに括ることにより、問題の本質が把握できた。 ■様々な角度から考えることにより、メンバーの視野を広げることができた。	■広範囲にわたったため、まとめるのに時間を費やした。
対策立案 実施	■他職種同士が広く意見を活発に交換することができた。 ■ユニットケアへの理解が深まり、ケアの質を高めることができた。	■活動内容の一つ一つが重く、負担を感じる場面があった。
効果の確認	■活動の成果を改めて確認することにより、今後の活動への意欲が高まった。 ■数値で効果を測ることにより、達成状況をよく評価することができた。	■活動の成果がよく分かるようなデータの表現方法に苦労した。
歎止め	■どのように継続していくのか、方法について具体化することができた。 ■職員の負担が少ない内容を立てることができた。	■全職員に、継続していくことの重要性を理解してもらうことに苦労した。

14. 波及効果

- ◆今回行ったアセスメントを基にケアプランを作成することにより、利用者様の主体性を大切にすることのできるケアプランへとつながった。
- ◆聴き取り調査を通じて、利用者様とのコミュニケーションが深まった。
- ◆新しい行事の実施によって、リビングでの利用者様方の日常の会話が増え、ユニット全体が活気付いた。
- ◆ご家族の面会回数が増えたことにより、利用者様の表情にも変化が見られた。
- ◆ユニットタイプ以外の職員もユニットケアに関心をもち、瑞祥全体の意識を高めることができた。

15. 今後の課題

- ◆この活動を通して、「寄り添う」ということが、いかに難しく大きなテーマであるかということを実感した。そのため、今活動における達成感を実感として手にすることが難しく、まだまだ課題を残すところであると認識している。成果が少しずつあっても、今回の活動を継続して実施していくこと、そして職員一人ひとりの意識を高く持ち続けることができるよう、ユニット全体で努めていきたい。
- ◆職員自身、まだまだ地域資源について知らないことが多く、さらなる勉強が必要だと感じた。今後、様々な形で、利用者様が地域住人の一員として生活していくことができるよう、取り組みを継続していきたい。